いよいよ後期盛年だ

森永　鉄美（２組）

朝早くから電話が呼んでいる。

時計を見る。まだ六時ちょっとだ。朝っぱらから誰だ。　少々不機嫌なまま受話器をとります。

「七班のＡーさんの家、様子がおかしい。いつもは消えている風呂場の電灯が、昨夜から灯いたままで今も灯いている。」と、町内のＭさんからの電話でした。

我が町内の自治会の構成、１２０戸程です。ニュータウンの呼称はこの団地が出来た頃はふさわしい名称でした。　出来てから四〇年近くも経つと今やオールドタウン、高齢者、一人暮らしが多くなり、何かと事件・事故が多いのです。

町内自治会のお世話役を引き受けて五年ほどになりますが、この間に二件の孤独死事件がありました。今朝の電話も、それかもとすぐ考えました。

Ａーさんの家へ行き、玄関のチャイムを鳴らします。反応なし。　電話呼び出しもしてみます。全く反応なし。いよいよ三例目かと緊張が高まります。

民生委員のＴさんにも来てもらいました。近くの交番に行き、警官立ち会いのもと家に入ることにしました。合カギの場所はＡーさんから「何かあったらここにありますから」と聞いていました。警察官立ち会いで、念のためもう一度チャイムし、電話もします。やはり応答なしです。警察の人、だんだん緊張です。家のまわりを調べ施錠の状況も確認します。

中へ入ることになり、合鍵を使います。　あちこちさわるなと注意を受けます。Ａーさんのご主人は産婦人科のお医者さんでした。亡くなってもう二〇年近くなりますか、一人暮らしの生活になってもう随分なります。　たしか八〇代後半の高齢者です。

家は広い、先ず問題の風呂場を確認します。我々には、あちこち触るな、動き回るなと待機の指示があっています。警察の方　不思議そうな顔で出てきました。風呂場はきれいに片付いている　と

では他の部屋で倒れているのでは　ということで室内を探すことになりました。居間は？　寝室は？女性の寝室を覗く・・・でも九〇才近くのばあちゃんだからいいか・・・

居ましたね　ベッドの中に。この間　警察の方は署の方と常時無線で連絡をとっています。

生きてる？　死んでる？　なんか呼吸はしているようです。　民生委員のＴさんと相談し、このまま寝かしておいて起きるのを確認して交番へ報告と言う話になったのですが、警察はそういうわけには行かないのですね、生存確認の指示がきます。　急に起こして警察の姿・・・びっくりして心臓麻痺したらどうする・・・で　私だけが寝室に入り　やさしく起こすことになりました。

Ａーさん　Ａーさ～ん　と徐々に声を大きくして起きるのを待ちます。　しばらくして目をあけました。きょとんとして　？？？の表情です。

民生委員、おまわりさんにも中へ入ってもらって、Ａーさんへ事の次第を説明しました。起こした私を見て、息子と思い、なんで帰ってきたのか、と思ったそうで、若く見てもらって感謝でした。風呂場の電燈は単なる消し忘れで、チャイムと電話への無反応は、薬を飲んで寝た、グッスリ寝てしまったので聞こえなかったのでしょう　ということで、笑い話で終わって、ほっとしたことでした。

我々もいよいよ高齢者の仲間入りです。一人暮らしの方も増えてきています。

町内のお世話をしながら、自分にもこのようなことは起こりえることだと気付かされました。いま八期会のお世話をしていただく役員の方々のおかげで、皆様にお会いする機会をいただき、近況を知ることが出来ます。まことに有り難いことです。

八期会が、末長く続くことを願っております。

（平成二十四年十二月十日　記）